



おいしい笑顔をお届けします

環境報告書

2006

Environmental Report
2006
Environmental Report
Shimadaya Corporation
2006

シマダヤ株式会社

シマダヤは環境について考えます



代表取締役社長

木下 紀夫

シマダヤは2002年に社員全員で作上げた新経営コンセプト「おいしい笑顔をお届けします」のもと「安全で安心」できる「めん」をお客様に供給するとともにお客様から信頼できる企業を目指しております。

環境取り組みについては2003年からスタートし全社の「部門」を基本的な単位として「通常の業務」の中で進めた結果、2004年7月にISO14001認証を取得することが出来ました。

2005年2月に京都議定書が正式発効された事を受け、私たちシマダヤの社員一人一人が「環境保全」、「省エネルギー」、「省資源」への取り組みを更に強固なものにする必要性を感じております。

このたび、シマダヤの環境取り組みの概要と、2005年までの取り組み成果につきまして「環境報告書2006」を作成致しました。また、新たに「2006年度環境目的・目標指針」を掲げ全員で継続的な改善を推進しております。

シマダヤの環境への取り組みをご理解いただくとともに、みなさまからご意見、ご指摘を賜り今後一層の取り組みレベルの向上に結びつけていく所存であります。

経営コンセプト

おいしい笑顔をお届けします

7つのビジョン

- 1 シマダヤブランドを守り育てよう**
おいしい笑顔は、シマダヤ社員一人一人が作るシマダヤブランドの心です。
- 2 独自の技術で市場を創造しよう**
技術のシマダヤ。お客様の視点に立った魅力的な技術で、おいしい笑顔をお届けします。
- 3 組織を超えて話し合おう**
コミュニケーションのシマダヤ。お客様の声・社内の声、コミュニケーションはおいしい笑顔の基本です。
- 4 お客様の満足を追求しよう**
ソリューションのシマダヤ。商品のみならず、お客様の問題解決によっておいしい笑顔をお届けします。
- 5 常に成長し高収益を上げよう**
収益力のシマダヤ。おいしい笑顔は、安定した経営基盤によって、継続的にお届けできるのです。
- 6 アイデアカンパニーを目指そう**
アイデアのシマダヤ。おいしい笑顔は、優れたアイデアによってお届けできるのです。
- 7 チャンスを与え人を育てよう**
人のシマダヤ。おいしい笑顔は人への思いやりから生まれるのです。

シマダヤ環境基本方針

環境理念

小麦とそばと塩と水。「めん」は自然の恵みそのものです。シマダヤは、自然環境と企業活動の調和の重要性を認識し、めんを中心とする事業活動を通して環境保全に取り組み、健全で豊かな社会の実現に貢献します。

環境行動指針

1. 環境関連法規の遵守
社会の一員として環境保全に取り組み、環境関連の法規制その他の要求事項を遵守します。
2. 資源、エネルギーの有効利用
資源、エネルギーの節約、有効利用に取り組みとともに、廃棄物の削減、再資源化により環境への負荷の低減に努めます。
3. 継続的な環境改善
事業活動のあらゆる面において環境に配慮し、絶えず見直し、継続的な改善に努めます。
4. 環境保全意識の醸成
情報収集及び教育を積極的に行い、従業員一人ひとりの環境に対する意識の向上に努めます。
5. 情報の公開
環境基本方針及び環境保全活動に関する情報を広く社内外に開示します。

2006年度環境目的・目標指針

1. 成果重視の環境活動の展開
2. 全社環境パフォーマンスの改善
3. 環境情報の公開
4. 環境教育の充実

会社概要

社名	シマダヤ株式会社	社名	東京シマダヤ株式会社
設立	1949年3月(創業1931年)	設立	2004年4月 (※シマダヤの自社工場を分社化 独立)
資本金	10億円	資本金	5,000万円
代表者	代表取締役社長 木下紀夫	代表者	代表取締役社長 大星由雄
社員数	329名(2006年3月現在)	社員数	105名(正社員29名 2006年3月現在)
事業内容	めん類及び関連食料品の販売	事業内容	ゆでめん類製造・販売
本社所在地	東京都渋谷区恵比寿西1-33-11	所在地	東京都昭島市武蔵野2-1-22
売上高	352億円(2005年度実績)	売上高	17億円(2005年度実績)
事業所数	本社:1 支店:7 出張所:3 ロジスティクスセンター:1 開発研究所:1 品質管理センター:1		
URL	http://www.shimadaya.co.jp		

対象範囲

対象組織:シマダヤ株式会社 東京シマダヤ株式会社
対象期間:2005年4月~2006年3月
(活動については直近のものを含む)
対象分野:環境的側面に関する事項
発行:2006年10月
(次回発行は2007年7月予定)

体制を整え、継続的な改善に取り組みます

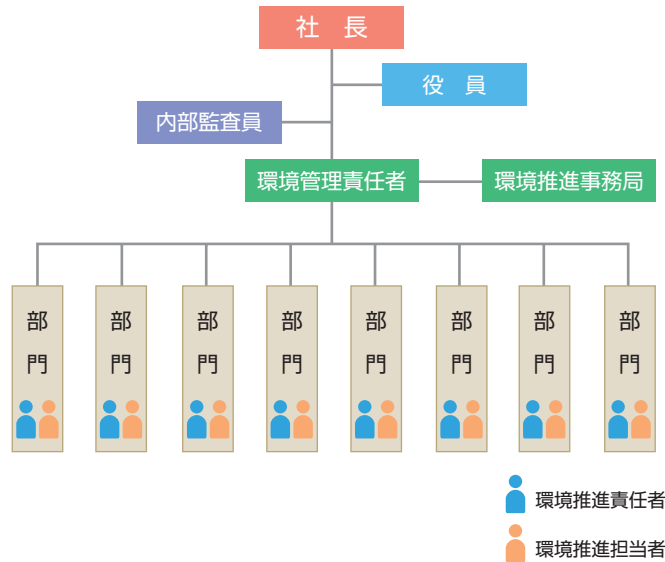


シマダヤの環境保全活動について

当社の環境保全活動は、シマダヤ株式会社（営業・管理・研究開発・物流）と東京シマダヤ株式会社（製造工場）が一丸となり進めています。

活動の基本的な単位は「部門」です。各部門において、部門の業務に沿った目的・目標を掲げ、プログラムを実施しています。（シマダヤ株式会社と東京シマダヤ株式会社は会社組織が異なりますが、環境マネジメントシステム上は東京シマダヤ株式会社をひとつの「部門」として捉えています）

■環境推進組織図



■活動の推進役と役割

全社の推進役	社長	全社の活動の最高責任者
	環境管理責任者	全社の活動の責任者
	環境推進事務局	環境管理責任者の補佐 環境推進室が主幹
部門の推進役	環境推進責任者	部門活動の責任者 原則として部門長
	環境推進担当者	部門活動のリーダー 各部門1名以上
事業所の推進役	事業所責任者	事業所単位の課題に関する責任者。複数部門が属する事業所や環境推進責任者のいない事業所（出張所など）に設置

ISO 14001 認証取得状況

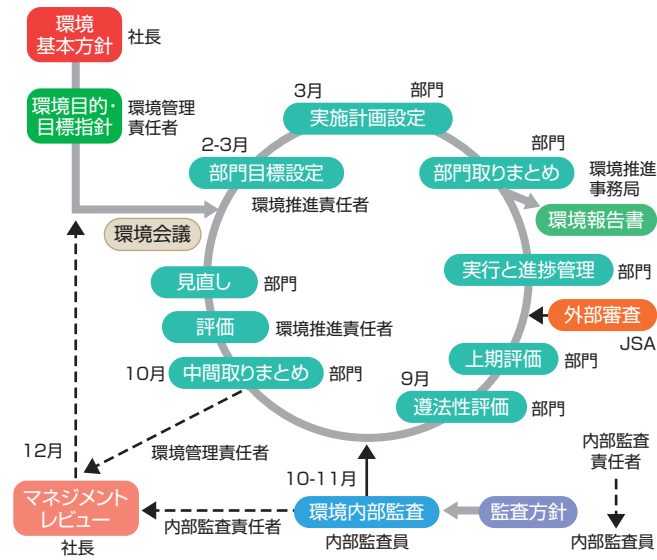
当社は2004年7月に、シマダヤ株式会社の全事業所並びに東京シマダヤ株式会社において、全事業所一括でISO14001認証を取得しています。2006年7月に第2回定期維持審査が実施され、登録継続が承認されました。また、2007年2月には更新審査を予定しています。

環境取り組みのあゆみ

2004年	1月	「シマダヤ環境基本方針」制定
	3月	「環境マネジメント要綱」制定
	4月/6月	ISO14001登録審査
	7月	ISO14001審査登録（認証取得）
2005年	7月	ISO14001第1回定期維持審査
	7月	ISO14001審査登録継続（ISO14001:2004に適合）
2006年	4月	商品開発における環境基本理念／環境に配慮した商品開発のための基本指針策定
	7月	ISO14001第2回定期維持審査
	7月	ISO14001審査登録継続

シマダヤのPDCAサイクル

シマダヤでは、環境基本方針を基に毎年全社の環境目的・目標指針が策定されます。それに基づき各部門の目的・目標を設定し、プログラムが実施され、定期的に評価・見直しが行われます。年に一度、外部機関による審査、内部監査、遵法性チェックが行われます。12月に社長によるマネジメントレビューが実施され、次年度の目的・目標指針へ反映されます。



製品への取り組み ～容器包装の削減へ～

家庭用商品のうち「シマダヤのうどん3食」の外袋の厚さを、2005年度下期より従来の50ミクロンから40ミクロンへ20%薄くしました。その結果、半年間で包材を約11トン削減することができました。その他の商品でも順次、包装の長さを短くする、厚みを薄くする等により、削減に取り組んでいます。



グリーン購入への取り組み

シマダヤでは、2005年度より事務用品を主体にグリーン購入を推進しています。部門毎に具体的な数値目標を掲げ取り組んでおり、部門によっては93%を達成しています。

環境への意識向上に取り組んでいます

●「環境のひろば」による環境情報の提供

社内イントラネットに「環境のひろば」を開設し、社員誰もがいつでも、環境関連情報を見ることができます。毎月発行している「環境通信」では、従業員が環境について実践していることや感じていることを紹介する「私のエコライフ」や、環境保全に関する最新のトピックスや豆知識等を掲載し、啓発活動を行っています。



「環境のひろば」

●環境教育

シマダヤでは、2004年度より環境に関する教育を行い、従業員一人一人の環境知識の向上に努めています。

2005年度実績

- ・新入社員研修 1時間 9名
- ・新任環境推進担当者研修 3時間30分 12名
- ・内部監査員養成研修 2日間 18名
- ・エコ・ネイションゲーム 2時間半 28名



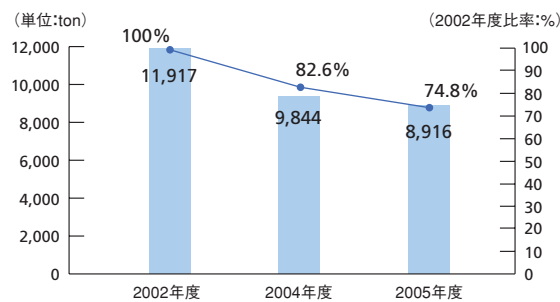
新入社員研修

エネルギー・廃棄物の削減に努めます



CO₂排出量の推移

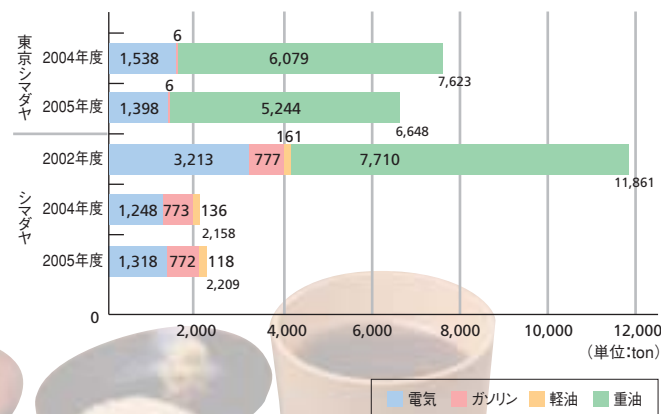
シマダヤでは、省エネルギーを実践しCO₂排出量の削減に取り組んでいます。2004年度の排出量から928トン削減しました。



エネルギー種類別のCO₂排出量

エネルギーの種類別にみると、東京シマダヤにおける重油の使用によるCO₂排出量が最も多いことがわかります。2005年度は製造数量の減少に伴い、重油の使用量が減少したことにより2004年度比12.8%と大きく削減しました。シマダヤ単体では、電気とガソリンの使用量が多く、全体の約95%を占めます。今後は、東京シマダヤにおける重油の使用とシマダヤにおける電気とガソリンの使用量の削減に向けて、より一層の工夫と努力をしていきます。

(※温室効果ガス排出係数:環境省地球環境局・事業者からの温室効果ガス排出量算定ガイドライン・電気は東京電力の係数を参照)



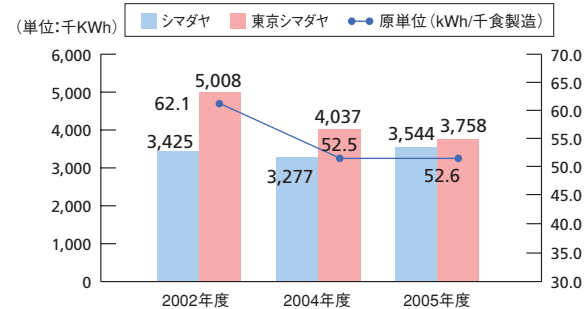
TOPIX

東京シマダヤの地球温暖化防止対策計画が東京都からA+の評価を受けました

東京都環境確保条例に基づく地球温暖化対策計画書制度において、東京シマダヤは'05年度よりCO₂削減のための計画書を提出しています。その計画書に対し'06年3月31日付通知書で、石原都知事よりA+の評価を受けました。

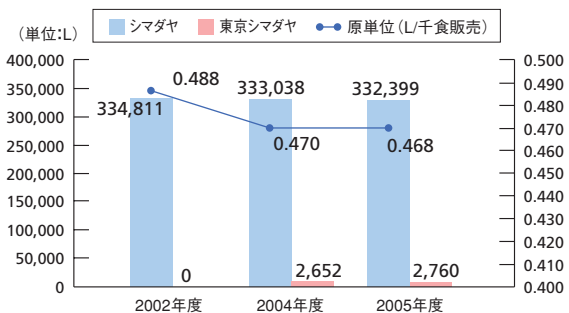
電気使用量の推移

シマダヤでは、オフィス部門において使用していない部屋の消灯や昼休みの消灯の推進、エアコンの調節(冷房27度・暖房22℃)等の努力をしました。しかしながら、厳冬による暖房使用量の増加等で2004年度比8.2%の増加となりました。東京シマダヤでは、製造待機時には製造用動力(コンベア等)のスイッチを切る、また各部署をパトロールする等の活動で、2004年度比6.9%削減できました。



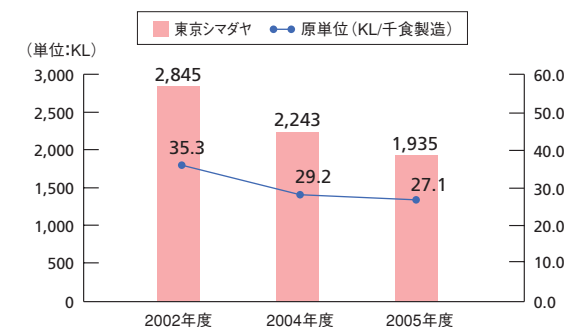
ガソリン使用量の推移

ガソリンは、営業部門においてエコドライブや回訪の効率化等、目標に掲げ削減に取り組んでおり、各部門でばらつきはありましたが、全体としてわずかながら減少しています。東京シマダヤでは、若干増えています。



重油使用量の推移

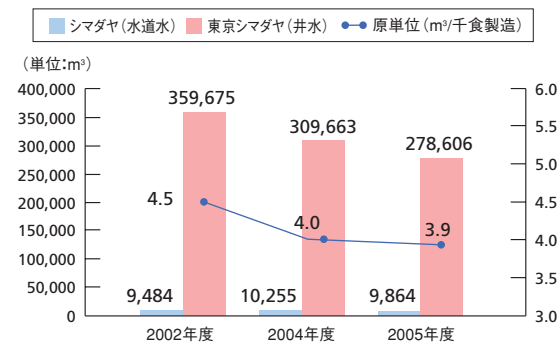
東京シマダヤでは、製造数量の減少により2004年度比13.7%削減しました。



注:原単位について 原単位は次のとおりです。シマダヤは千食販売あたりの使用量。東京シマダヤは、千食製造あたりの使用量。

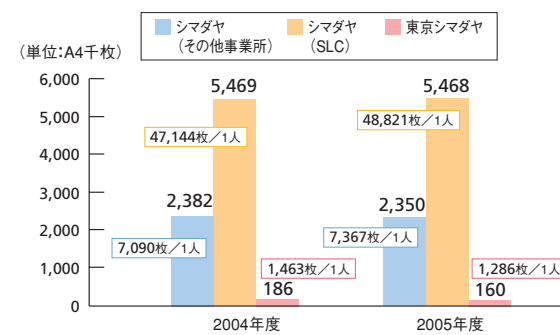
水使用量の推移

シマダヤでは水道水を使用しており、2004年度比3.8%削減しています。東京シマダヤでは井戸水を使用しており、2004年度比10.0%削減しています。



OA用紙使用量の推移

シマダヤで最もOA用紙を使用しているのは、シマダヤロジスティクスセンター(SLC)で約70%を占めます。工場からの商品の入出庫の際、ロット管理するための印刷や受注等でOA用紙の使用が多くなっています。全体では、無駄な印刷を避ける、縮小や両面印刷の遂行、裏紙の使用等で削減に努めていますが、2004年度比シマダヤはほぼ横ばい、一方東京シマダヤでは14.1%の削減となっています。



廃棄物の排出量

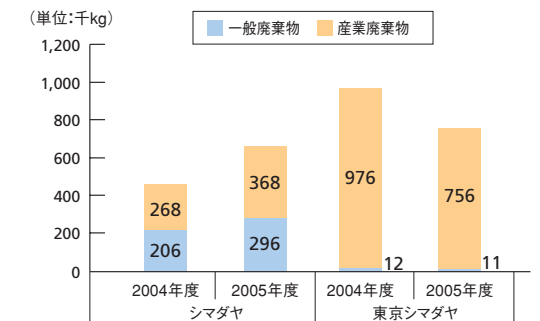
●一般廃棄物について

シマダヤの一般廃棄物の排出量が増加していますが、2004年度上期の数量が正確に把握されていなかったためです。そのうち、OA用紙や食品(商品見本も含む)を57.7%リサイクルしています。東京シマダヤでは、一般廃棄物の排出量が少なく、またリサイクルは行っていません。

●産業廃棄物について

シマダヤの産業廃棄物の排出量は38%増加しています。主に、シマダヤロジスティクスセンター(SLC)での製品廃棄が多

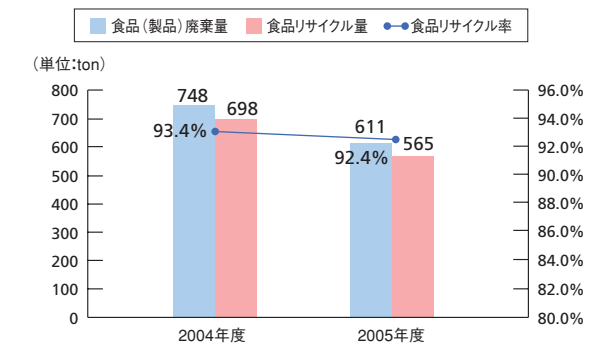
く、2004年度よりリサイクルに回しています。2004年度のリサイクル率は48.3%でしたが、2005年度は74.2%にアップしました。東京シマダヤの産業廃棄物は食品残渣がほとんどですが、製造数量の落ち込み以上に排出量を大きく減らしています。歩留りの向上や廃棄物削減活動の成果が出ています。



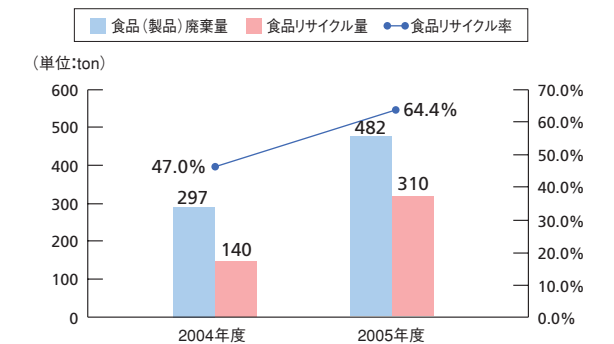
食品リサイクルの取り組み

東京シマダヤ及びシマダヤで発生する食品廃棄(食品残渣)は飼料原料やメタン原料としてリサイクルされています。東京シマダヤでは発生抑制に努め、排出量が2005年度は2004年度より19%削減しています。リサイクル率は92%を達成しています。シマダヤ単体では、排出量が2004年度より184トン増加していますが、リサイクル率は47.0%から64.4%へアップしています。今後シマダヤでは排出量を減らす努力とともにリサイクルを推進していきます。

■東京シマダヤ



■シマダヤ





みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

シマダヤ株式会社はチームマイナス6%に参加しています。

環境報告書に関して

シマダヤ株式会社

- お問合せ先 環境推進室
- 所在地 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11
TEL.03-5489-5592 FAX.03-5489-5507



この印刷物は、有害廃液を排出しない「水なし印刷」方式を採用しています。またインキには、VOC（揮発性有機化合物）成分フリーのインキを使用し、適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。